

■2020 栄光サッカークリニック(第 2 回実施レポート)

◇日時:2020 年 11 月 29 日(土)15:00~17:00

◇場所:湘南工科大付 C

◇参加:柴野先生、北川先生、千野コーチ、高橋

◇内容:U-18 栄光A K4S 第 6 戦の試合観察

(1)高校チームの状況

- ・高校 A の公式戦観察。
- ・栄光は、A(S)B(P)2チームが K4 で参戦中。
- ・コロナ禍の影響に加えて、夏からグラウンド改修工事が始まり、陸上フィールドで限定的な部活動になっているが、一応週2回の練習機会は確保できるようになった。
- ・栄光Aは、K4Sグループ(7校)ですでに5試合消化済みで3勝1敗1分けの6戦目でグループ首位の湘南工科大学附属高校Cとの対戦。
- ・チーム全体の状況と対戦相手にどこまでやれるかの観察。
- ・詳細の戦績は、次の URL 参照のこと。

<https://www.kanagawa-fa.gr.jp/cms/u18-league/2020/div4-s/>

(2)試合経過

- ・前半 10 分で1点先行したものの、20 分、30 分、35 分と逆転され、後半 20 分にダメ押しの加点で、結果 栄光 0-4 湘南工科 C と敗退。
- ・試合前の練習を見ているとフリーで行うキックは素晴らしく正しく基礎トレーニングが繰り返し遂行されていることが確認できました。
- ・試合においても先取点をもたらしたのはフリーキックからのこぼれ球をフリーになれるポジションをとっていた選手が見事なボレーシュートを決めたからでした。
- ・まさに練習は試合の鏡といったところでした。
- ・しかしセットプレイ以外の流れのなかでは相手チームのプレッシャーをはねのけるための判断力が不足していました。
- ・相手チームからボールを奪うための予測力も同様に劣っていました。前述したように練習は試合の鏡です。
- ・普段から常に相手がいる状況で素早い判断が求められる練習の時間をより長くする必要があると感じられました。
- ・良いトレーニングとは同じことを繰り返し行うルーティンワークではなく常に様々な判断が求められるものなのです。
- ・そのためには変化が常に必要となります。
- ・練習方法の一例をあげるならばボール2個での 4 ゴールゲームなど。

- ・目まぐるしく変わる状況のなかで正しく判断できる選手を育成していくことが勝てるチームを作る上で重要になると思います。

- ・これからのチームの成長を期待しています。

(千野)

- ・相手チームとの決定的な差は、栄光チームが動きながらのボール処理(トラップ、パス、ヘッド、キックなど)ができないこと。

- ・基礎的なトラップ、パス、ヘッド、キックなどがきっちりできていない上に動きながらとなるとボールが正しく足や頭に当たらないです正確なパスやミスにつながる。

- ・更に、相手のマークが付いて来るプレッシャーにより、瞬時の判断が更に鈍くなって、結果うまく行かないため攻撃ができない。

(高橋)

~~~~~

以上